

【事業名称】 日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
 ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～
 【選定年度】 平成28年度（タイプB ASEAN）

【事業の概要】

■本事業は、経済的成長・産業興盛と自国の伝統的芸術文化・遺跡・風土・観光資源の維持継承との調和に基づく発展を目指すCLMV諸国等において、各国を代表する8校の国立芸術大学と連携し、「高等教育機関における芸術教育プログラムの充実」「質保証システムの構築による芸術文化の保存・継承」「産業の発展に係るインフラ人材の育成」を目指す取組である。

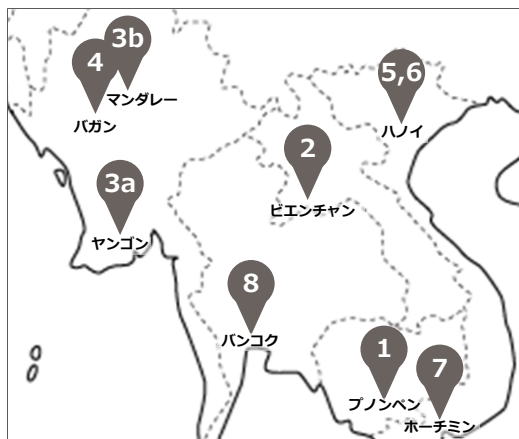
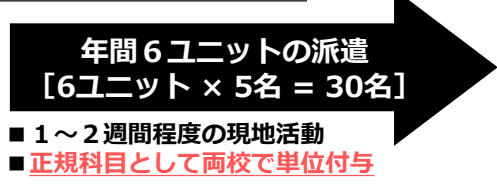
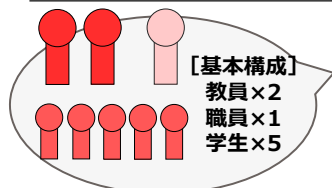
【交流プログラムの概要】

教職員・学生ユニットの派遣による
 連携大学における共同授業



連携大学の所在都市・地域コミュニティ等を
 舞台とした協働社会実践（アートプロジェクト）

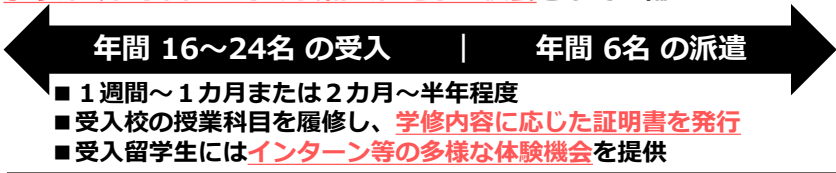
例）日本画と連携国特有の絵画表現を題材とした共同授業
 ⇒地域の子どもたちを対象とした絵画教室を協働で開催



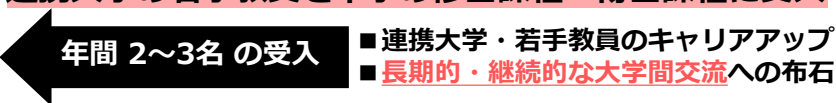
- ☆☆ ①カンボジア王立芸術大学
 - ☆☆ ②ラオス国立美術学校
 - ☆ ◆※③ミャンマー国立文化芸術大学 (a.ヤンゴン校 b.マンダレー校)
 - ※④バガン漆芸技術大学
 - ☆ ◎ ※⑤ベトナム美術大学
 - ▲◆ ⑥ベトナム国家音楽学院
 - ★▲◆※⑦ホーチミン市美術大学
 - ★◎◆ ⑧シラパコーン大学
- ☆：日ASEAN芸術大学ネットワーク参加校
 ★：芸術交流プロジェクト参加校
 ◎：本学との国際交流協定締結校（▲：手続中）
 ◆：国際芸術教育会議2015招待校
 ※：本学の帰国留学生が教員として在籍

短期研修・交換留学

主として、上記の共同授業・協働社会実践に参加した各校の学生が
 より深く相手国・大学の芸術文化を学ぶ機会として整備



連携大学の若手教員を本学の修士課程・博士課程に受入



【本事業で養成する人材像】

■本事業では、自国の芸術文化に係る深い造詣と高い専門技能を兼ね備えて国際的に発信する力を有するとともに、他国の文化・歴史・風土等を真に理解し語学力や対話力を含む高いコミュニケーション能力を備え、多様な利害関係者との国際協働の場で自らの能力を適切に発揮することで社会実践に活かし、国際社会において伝統と革新の調和に基づく都市や地域の豊かな繁栄に貢献できる人材の養成を目指す。

【本事業の特徴】

■交流プログラムにより、CLMV諸国等が抱える諸課題と、本学及び我が国が抱える「グローバルに活躍できる芸術系人材の育成」「学生の海外留学・外国人留学生の受入促進」「大学組織・教職員の国際通用性の向上」「日本の芸術文化の普及・振興・発信」「芸術文化交流を通じた国際社会への貢献」等の諸課題とを同時並行的に解決する。さらに、本事業の持続的推進により、日本への留学者数の増加や日本の芸術文化・産業等の受容増進を導く「心のインフラ」を構築しつつ、アジア高等教育圏の更なる発展および交流の加速に資する。

	H28	H29	H30	H31	H32
学生の派遣	18人	36人	36人	36人	36人
学生の受入	10人	16人	19人	19人	26人

1. 取組内容の進捗状況（平成28年度）

【東京藝術大学】

【事業名称】 日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

【選定年度】 平成28年度（タイプB ASEAN）

■ グッドプラクティス等



ラオスでの合同フィールドリサーチ



タイでの共同ワークショップ



ミャンマーでの交流授業

■ 交流プログラムの実施状況

○ 日本人学生の派遣

【ユニット派遣：共同授業やワークショップの実施】

- ・ シラパコーン大学に教職員3名、学生8名を派遣した。
- ・ バガン漆芸技術大学に教職員5名、学生5名を派遣した。
- ・ ミャンマー国立文化芸術大学に教職員2名、学生4名を派遣した。
- ・ ラオス国立美術学校に教職員4名、学生3名を派遣した。

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	18	22
学生の受入	10	20

【短期研修・交換留学：学生個人による滞在学修】

- ・ 短期研修生1名と交換留学生1名の計2名の学生をシラパコーン大学に派遣した。

○ 外国人留学生の受入

- ・ ミャンマー国立文化芸術から教員1名・学生2名を招聘：Global Homecomingに参加した。
- ・ ホーチミン市美術大学から教員2名・学生2名を招聘：卒業・修了作品展覧会を見学した。
- ・ ベトナム国家音楽院より教員2名・学生2名を招聘：奏楽堂におけるコンサートに出演した。
- ・ シラパコーン大学から教職員9名・学生14名を招聘：研究発表会やワークショップを実施した。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・ 連携8大学のすべてについて訪問または招聘を行い、交流プログラムに係る協議を実施した。
- ・ 交流プログラムの企画・実施に係る学内ガイドラインを策定・共有した。
- ・ 交流プログラムの企画・実施にあたって外部コーディネーターを活用した。
- ・ 平成29年3月に外部有識者4名からヒアリングを行い、次年度以降の交流計画を精査した。
- ・ 全学組織であるグローバルサポートセンター運営委員会において本事業の自己点検を実施した。
- ・ 本補助事業を含むグローバル戦略推進状況について外部委員によるレビューを実施した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・ 本事業を担当する専任のプロジェクトマネージャーを雇用した。
- ・ 各大学の管轄省庁や現地日本大使館、国際交流基金等と学生サポートに係る協議を実施した。
- ・ S G U事業により構築したグローバルサポートセンター、チューター制度等を活用した。
- ・ 派遣学生に対して、現地社会・現地語や安全対策に関する事前ガイダンスや説明会を実施した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・ ユニット派遣の一部企画には、連携大学以外の派遣先国の学生も参加し、共同学修を行った。
- ・ 交流プログラムの内容について、特設Webサイトにおいてレポートを発信した。
- ・ S G U事業で開催した「Global Homecoming2016」に、本事業の連携大学から特別枠として教員・学生を招聘し、ASEAN諸国以外も含めたネットワークの強化・拡大を図った。

2. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【事業名称】 日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

【選定年度】 平成28年度 (タイプB ASEAN)

■ 交流プログラムの実施状況とグッドプラクティス

平成29年度は、当初の構想を大幅に上回る56名の学生を本学から海外に派遣し、21名の学生を海外連携大学から受入れた。本事業における多様な交流活動のうち、特色ある取組を以下に記す。

○ 日本人学生の派遣

【ユニット派遣：共同授業やワークショップの実施】

- アンコール地域遺跡の発掘・修復を管轄するカンボジア政府のアプサラ機構、日本アンコール救済チーム（JASA）と連携し、カンボジア王立芸術大学と本学彫刻専攻の教員・学生が、アンコール遺跡群の修復と石材加工に関するワークショップに参加した。
- 音楽環境創造科の教員・学生がタイ・シラパコーン大学と共同で、音響に関する公開レクチャーおよび寺院を会場としたフィールドレコーディングを実施した。
- 先端芸術表現科の教員・学生がビエンチャン・ルアンパバンに渡航し、ラオス国立美術学校の学生とともに、様々な意匠が描かれた傘を用いて街の景観を彩る「アンブレラプロジェクト」を実施した。

【短期研修・交換留学：学生個人による滞在学修】

- 学生個人を連携大学間で派遣し合う短期交換留学を実施し、平成29年度は本学から計5名の学生をミャンマー、ベトナム、ラオス、タイに派遣した。

○ 外国人留学生の受入

- ホーチミン市美術大学から教員・学生を招聘し、東京・長崎県五島・ホーチミンの地理的・文化的特色をテーマとしたフィールドワークを実施した。
- カンボジア王立芸術大学の学生が、本学の学生とともに奈良を中心に日本の文化財を巡る古美術研究旅行に参加した。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 連携8大学のすべてについて訪問もしくは招聘を行い、活発な交流活動を実施した。
- 連携8大学と本事業の円滑な推進を目的とした覚書の締結について協議し、平成29年度にはそのうち4大学と覚書を締結した。
- 平成29年3月に実施した外部有識者からのヒアリング結果を受け、個別の交流活動内容を改善したことで、より高い教育効果の創出を実現した。
- 本学のグローバル戦略推進委員会における協議、外部有識者により構成されるグローバル戦略評価・検証委員会における第三者評価を実施し、これまでの事業内容の検証・評価を実施した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 各大学の管轄省庁や現地日本大使館、国際交流基金等との綿密な情報交換・学生支援体制を構築しつつ交流活動を実施した。
- 派遣学生に対して、現地社会・現地語や安全対策に関する事前ガイダンスや説明会を実施した。
- 過去に本学で学んだ元留学生のネットワークを用い、現地情報の収集および連携大学との連絡体制を強化した。
- 外国人学生および海外渡航を希望する学生への支援を更に強化すべく、本学職員が実際に海外に滞在し、語学力とともに異文化理解度を高める「海外短期語学研修」や、留学生を教師とした実践型の「外国人留学生と職員の交流授業」を開始した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- 本学における研究・教育の実績を世界に向けて発信するためのwebサイト「GEIDAI × GLOBAL」の内容、レイアウトを一新し、日英両言語での情報公開体制を強化した。
(GEIDAI × GLOBAL: <http://global.geidai.ac.jp/>)

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	36	56
学生の受入	16	21



(ミャンマーで実施した、漆に関する交流事業)



(カンボジアでは石材加工のワークショップに参加)



(ラオスで実施した「アンブレラプロジェクト」)

3. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【事業名称】 日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

【選定年度】 平成28年度 (タイプB ASEAN)

■ 交流プログラムの実施状況とグッドプラクティス

平成30年度も計画を上回る44名の学生を本学から海外に派遣し、17名の学生を海外連携大学から受入れた。本事業における多様な交流活動のうち、特色ある取組を以下に記す。

○ 日本人学生の派遣

【ユニット派遣：共同授業やワークショップの実施】

- ミャンマー国立文化芸術大学と連携し、ミャンマーの伝統楽器である打楽器アンサンブル「サインワイン」の演奏実習を行い、**音楽学の調査手法の共有を目的とした研究発表会を開催した。**
- シラパコーン大学と連携し、タイの童話を題材に音響作品の共同制作を行い、**SEAMEX (東南アジア音楽教育交流の国際学会) に参加して発表を行った。**
- ベトナム国家音楽院と連携し、室内楽の共同コーチングとその成果発表としての**共同コンサート**を、本学学生が**音楽マネジメントの実践として実施した。**コンサートは300名以上の観客を動員し、国内外のメディアでも取り上げられた。
- アンコール地域遺跡の発掘・修復を管轄するカンボジア政府のアップサラ機構、日本アンコール救済チーム (JASA) と連携し、カンボジア王立芸術大学と本学彫刻専攻の教員・学生が、**アンコール遺跡群の修復と石材加工に関するワークショップ**に参加した。

	H30	
	計画	実績
学生の派遣	36	50
学生の受入	19	21



(ミャンマーの伝統楽器の演奏実習)



(タイでの学会発表)

【短期研修・交換留学：学生個人による滞在学修】

- 学生個人を連携大学間で派遣し合う短期交換留学を実施し、本学から計7名の学生をミャンマー、ベトナム、ラオスに派遣した。

○ 外国人留学生の受入

- シラパコーン大学の学生を招聘し、本学学生との共同制作作品を「千住アートパス」において合同コンサートを開催した。



(ベトナムで実施したコンサート)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 連携8大学のすべてについて訪問もしくは招聘を行い、活発な交流活動を実施した。
- 連携8大学と本事業の円滑な推進を目的とした覚書の締結について協議し、平成30年度はミャンマー国立文化芸術大学ヤンゴン校と覚書を締結した。
- 交流に参画した若手教員を中心に連携大学との間で相互派遣を実施し、研修または教育研究活動を行ったことで、将来に渡る持続的な交流を見据えた教員ネットワークが構築され、深化した。
- 本学のグローバル戦略推進委員会における協議、外部有識者により構成されるグローバル戦略評価・検証委員会における第三者評価を実施し、PCDAサイクルを実行してプログラムの充実、広報体制の強化を行った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 引き続き、各大学の管轄省庁や在外公館、国際交流基金等との綿密な情報交換を行い、学生支援体制を構築しつつ交流活動を実施した。
- 派遣学生に対して、現地社会・現地語や安全対策に関する事前ガイダンスや説明会を実施した。
- 元留学生とのパイプを絶やさず、現地情報の収集および連携大学との連絡体制を強化した。
- 外国人学生および海外渡航を希望する学生への支援を更に強化すべく、本学職員が実際に海外に滞在し、語学力とともに異文化理解度を高める「海外短期語学研修」や、留学生を教師とした実践型の「外国人留学生と職員の交流授業」を開始した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- 本学における研究・教育の実績を世界に向けて発信するためのwebサイト「GEIDAI × GLOBAL」により、日英両言語での情報公開を引き続き実施した。
(GEIDAI × GLOBAL : <http://global.geidai.ac.jp/>)

4. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【事業名称】日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
 ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～
 【選定年度】平成28年度(タイプB ASEAN)

■ 交流プログラムの実施状況とグッドプラクティス

5か国・8大学と連携し交流プログラムを実施し、学生17名・教員22名を派遣、教員11名と学生8名を受入れた。本年度は2月から3月にかけて予定していた13名の学生派遣・受入が新型コロナウイルス感染症拡大を受けて実施できなくなり目標数には至れなかったものの、学生の持続的な相互交流や若手教員・研究者の育成強化を図り、対外的な成果発表を伴う交流活動を多数実施した。

○ 日本人学生・教員の派遣

- 政府間の周年事業である「日メコン交流年2019」の一環でヤンゴンで開催された展覧会「Beauty of the Mekong」にミャンマー政府および在ミャンマー日本大使館の要請を受け、工芸科及び映像研究科教員がミャンマー国立文化芸術大学美術学部の教員と学生とともに出品、メコン諸国の要人やミャンマーの若者に日本のアートを紹介した。
- 音楽環境創造科と楽理科の教員と学生が、ミャンマーの伝統音楽の共同調査を行い、同国の国立文化芸術大学の学生に対し録音実習を行った。
- ベトナム美術大学デザイン専攻と本学デザイン科の教員と学生が空間デザインに関する共同ワークショップをベトナムで行い、その後、東京芸術大学にて双方学生の成果発表のための展覧会を開催した。

○ 外国人学生・教員の受け入れ

- ベトナム美術大学、ホーチミン市美術大学、カンボジア王立芸術大学、ラオス国立美術学校から教員と学生を招聘し、本学美術学部の3学科(漆芸・絵画・彫刻)による短期研修プログラムを行った。
- ミャンマー国立文化芸術大学の音楽学部の若手教員と学生を招聘し、本学学生と教員とともに、伝統音楽に関するコンサートを開催した。
- ベトナム国家音楽院の若手教員と学生を招聘し、本学音楽学部が室内楽に関する研修プログラムを実施、両校学生・教員が日本・ベトナム文化交流協会が主催するコンサートで共演した。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 連携8大学のすべてについて訪問もしくは招聘を行い、活発な交流活動を実施した。
- 本事業の円滑な推進を目的とし、平成31年度はホーチミン市美術大学と覚書を締結した。
- 交流に参画した若手教員を中心に連携大学との間で相互派遣を実施し、研修または教育研究活動を行ったことで将来に渡る持続的な交流を見据えた教員ネットワークが構築され、深化した。
- 本学のグローバル戦略推進委員会における協議、外部有識者により構成されるグローバル戦略評価・検証委員会における第三者評価を実施し、PCDAサイクルを実行してプログラムの充実、広報体制の強化を行った。

	R1	
	計画	実績
学生の派遣	36	17
学生の受入	19	8



(展覧会「Beauty of the Mekong」のセレモニーの様子)



(ミャンマーの伝統音楽のための録音実習の様子)



(絵画科による研修プログラムの様子)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 各大学の管轄省庁や在外公館、国際交流基金等との綿密な情報交換を行い、学生支援体制を構築しつつ交流活動を実施した。
- 派遣学生に対して、現地社会・現地語や安全対策に関する事前ガイダンスや説明会を実施した。
- 元留学生とのパイプを絶やさず、現地情報の収集および連携大学との連絡体制を強化した。
- 外国人学生および海外渡航を希望する学生への支援を更に強化すべく、本学職員が実際に海外に滞在し、語学力とともに異文化理解度を高める「海外短期語学研修」や、留学生を教師とした実践型の「外国人留学生と職員の交流授業」を開始した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- 本学における研究・教育の実績を世界に向けて発信するためのwebサイト「GEIDAI × GLOBAL」により、日英両言語での情報公開を引き続き実施した。(GEIDAI × GLOBAL: <http://global.geidai.ac.jp/>)

【事業名称】日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

【選定年度】平成28年度（タイプB ASEAN）

■ 交流プログラムの実施状況／学生のモビリティ

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全ての交流プログラムはオンラインで開催。

連携大学とのオンラインでの国際交流プラットフォームとして「TMOP（Tokyo University of the Arts ⇄ Mekong Online Platform）」（Webサイト）を開設（令和2年度末までの延べ利用者数346人）

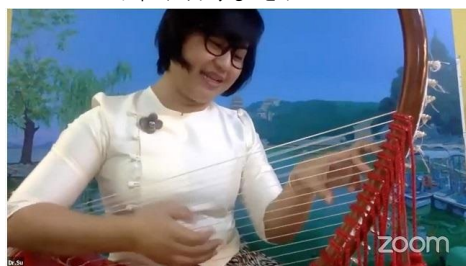
	R2	
	計画	実績
学生の派遣 オンライン交流実績	36	7
学生の受入 オンライン交流実績	26	7

TMOPを通じた交流の実績

- 本学教員・学生によるASEAN芸術関係者インタビュー（対話）の実施（本学学生1名・教員4名／連携4大学から教員5名参加）
 - カンボジア王立芸術大学と彫刻専攻の教員学生によるプロジェクトアーカイブ動画の作成と、オンラインでの上映・共有ワークショップの実施（本学学生4名／カンボジア、ラオス、ミャンマーの連携大学学生4名・教員2名参加）
 - 漆芸技法に関するオンラインコンテンツのレクチャー動画制作、ベトナム美術大学・ホーチミン市美術大学に提供・授業にて活用（本学教員2名／連携大学学生複数名が受講）
 - 短期研修に参加した学生の作品を、オンラインで連携大学教員向けに発表（本学学生2名*・教員2名／連携大学学生2名・教員4名参加）
 - 事業総括を目的としたオンラインイベント「Tokyo Geidai ⇄ Asia 2021」を開催（本学学生2名*・教員18名／連携6大学学生1名・教員12名参加）
- ※視聴者としての学生参加数を含めると実績はさらに増（総視聴数280）
*既卒生1名ずつを含む



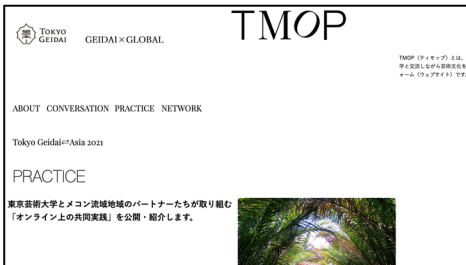
オンラインイベント「Tokyo Geidai ⇄ Asia 2021」：
Conversation Vol.1 出会いの方法/異なる「アジア」を
フィールドにすることのーコマ



オンラインイベント「Tokyo Geidai ⇄ Asia 2021」：
ミャンマーから生演奏を届けるSu Zar Zar氏
（元留学生、現ミャンマー国立文化芸術大学講師）

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 交流に参画した若手教員を中心に連携大学との間でオンラインによる対話を継続し、将来に渡る持続的な交流を見据えた教員ネットワークを深化
- 本学のグローバル戦略推進委員会における協議、外部有識者により構成されるグローバル戦略評価・検証委員会における第三者評価を実施し、プログラムの評価を行った。
- アジア地域との国際交流事業に取り組む「東京藝大アジア・アートイニシアティブ」を発足し、事業終了後も継続して質保証を伴った大学間交流に取り組むための学内組織を形成した。



オンライン交流プラットフォームTMOP

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- 環境変化に対応するため、オンラインでの国際交流を可能にするためのプラットフォーム（ウェブサイト）を開設した。
- 元留学生とのパイプを絶やさず、継続して現地情報の収集および連携大学との連絡体制を強化した。
- 語学力とともに異文化理解度を高める研修等を実施した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- 本学における研究・教育の実績を世界に向けて発信するためのwebサイト「GEIDAI × GLOBAL」により、日英両言語での情報公開を引き続き実施した。（GEIDAI × GLOBAL： <http://global.geidai.ac.jp/>）
- 「大学の世界展開力強化事業（ASEAN）プロジェクトレポート」を発行した。
- オンラインイベント「Tokyo Geidai ⇄ Asia 2021」を開催。本学や連携大学の教員・学生、外部有識者を招き、シンポジウムやディスカッションイベントを実施、ウェビナーやYouTubeで一般にも公開し、280名が視聴参加した。

■ グッドプラクティス等

- 2021年1月を「東京藝大インタラクティブアジア月間」とし、アジア地域との国際交流に焦点をあてたオンラインでの国際シンポジウム・国際フォーラム、芸術ジャンルごとのテーマによるディスカッションイベントを混じえた「Tokyo Geidai ⇄ Asia 2021」を開催。本学や連携大学の教員・学生、外部有識者を招き、これまでの取り組みの振り返りや今後の発展について議論する場となった。これらはウェビナーやYouTubeで一般にも公開し（総視聴数280）、芸術系財団等の外部からの大きな反響があり、事業成果普及に留まらず、新たなネットワーク形成の機会となった。